

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

<b>研究領域名</b>	ネアンデルタールとサピエンス交替劇の真相：学習能力の進化に基づく実証的研究
<b>領域代表者</b>	赤澤 威（高知工科大学・総合研究所・教授）
<b>研究期間</b>	平成 22 年度～平成 26 年度
<b>科学研究費補助金審査部会における所見</b>	<p>本研究領域は、現代人起源論争に残された最大のテーマであるネアンデルタール（以下「旧人」）とホモ・サピエンス（以下「新人」）の交替劇の真相に、先史考古学、文化人類学、心理学、教育学、理論生物学、環境科学、脳科学といった系や分野を超えた協働によって迫るという明確な目的を有し、独創性と国際性に富んだスケールの大きな研究領域である。旧人と新人が人類進化の途上で置き換わったという事実は、関連する分野の研究者のみならず一般社会においても関心の高いテーマであり、「環境仮説」、「社会システム仮説」、「生業仮説」といったモデルは欧米の研究者を中心に発表され、実証的な調査、研究が続けられてきた。本研究領域では交替劇が生まれた一つの可能性として、旧人と新人との間における学習能力の差に着目した作業仮説である「学習仮説」を、領域代表者らがこれまでに蓄積してきたデータをもとに提示するとともに、それを検証するため、従前に掲げた諸分野融合による学際的な計画研究を組織した研究領域の設定を行っている。それぞれの計画研究が担う役割、方法論、相互の関係は、総括班ならびに領域代表者を基軸としながら明確に示されており、既存の枠組をこえた学問環境を創出する可能性が十分に期待できる。また、交替劇の真相を解き明かすことは、人類の将来を考えるうえでの重要な鍵でもあり、本研究領域が有する社会的意義は高い。</p>